

一般質問とは、議員が町の行財政全般に対し、疑問点を質問し確かめることです。  
会派の代表者が質問する「会派代表質問」と、個人の議員が質問する「個人質問」があり、質問時間は答弁を含め50分以内です。



政和クラブ  
大岩 保 議員

# 平成29年度予算の特徴は

## 中長期を見据えた継続性のある予算

### 予算増の要因は

**問** 一般会計予算が、前年比3億円のプラスだが、その主な内容は。

**答** 総務部長 プラス要因となった主な事業は、知多武豊駅東土地区画整理事業7件分の物件移転補償などで約2億4000万円の増額。

道路新設改良事業で武豊港線物件補償、北中根擁壁改良工事などで約1億3000万円の増額。

公園緑地整備事業で、野菜茶業研究所跡地の6割分に当たる約1ヘクタールの用地買収費1億5360万円。

北中根地区の民間保育所等施設整備事業約3000万円と仮設園舎整備で約5500万円の4事業が主なものである。

### 中長期財政計画との整合は

**問** 中長期財政計画と照らし合わせた新年度予算への考えは。

**答** 総務部長 新年度予算は「入るを量りて出ざるを制す」「選択と集中」に基づき、事業内容や実施時期などを熟慮し、最終的に中長期財政計画を約9200万円上回る128億4800万円とした。

当初予算額が中長期財政計画の見込額を上回ったことで、財政調整基金繰入額は、当該計画と比較し1億円余多い金額となった。平成28年度決算が出ていない現時点では、今後の財政課題と考えている。

**会派予算要望の反映は**

**問** 政和クラブ予算要望の中で、平成29年度予算に反映された項目と内容は。

**答** 町長 要望項目の一部ではあるが、協働事業については、引き続き提案型協働事業交付金・協働推進事業委託料・地域活動推進交付金に。防犯カメラの設置を各小学校に、計12台設置。都市公園やポケットパーク

の増設は、防災機能のある都市公園の整備を目的に野菜茶業研究所跡地の用地買収費。放課後児童クラブの定員増加に併せた施設整備費に。

また、福祉の充実では、障がい者や高齢者が安心して生活できる、個別の計画策定委託料に。女性活躍推進事業の強化では、女性キャリアアップ研修など。

住宅改善や耐震性の向上の推進では、武豊町建築物耐震改修推進計画に基づき、住宅耐震診断委託料を始め、住宅耐震改修などにかかる各種補助金に。知多武豊駅東土地区画整理事業の早期完結とともに、武豊町ならではの魅力ある駅前づくりの推進では、物件移転補償および整備工事などを予算計上した。



武豊港線と買取り予定の野菜茶業研究所跡地



きずな  
青木 宏和 議員

# 問 雑紙回収による ごみの削減量は

## 答 年間約300tの削減を目標

平成34年には、半田市・常滑市・美浜町・南知多町・武豊町による知多南部広域環境センターが、供用開始予定になっている。

供用開始に向け、ごみの減量・資源化を進めるために具体的な取り組みが必要である。

### 知多南部広域環境組合 での合意事項

**問** 知多南部広域環境センターについて、焼却処理方式や規模など、これまでに決定している内容は。

**答** **生活経済部長** ごみ焼却処理方法は、ストーカ方式(※)で、施設規模は、1日当たり283tとする。

運営事業方式は、DBO方式(※)により事業を実施していくことが決定している。

※ストーカ方式…ごみを移動させながら処理する方式

※DBO方式…公共が資金調達を負担し、設計・建設・運営を民間に委託する方式

### 雑紙回収によりごみを削減

**問** 平成29年10月より雑紙回収を始めるが、削減量は。

**答** **生活経済部長** もえるごみの中には、ダイレクトメーカーやメモ紙・レシートなどに再生利用できる紙類が約2割含まれている。

それらの紙類を分別していただくことで、平成29年度は約150tの回収を見込み、同時にもえるごみの削減を図る。

平成34年の知多南部広域環境センターの供用開始までの5年間のうちに、もえるごみの中から再生できる紙類を年間約300t削減する想定をしている。



■平成29年10月より新たに資源化される雑紙

### 刈草などの資源化を検討

**問** 刈草や剪定枝の資源化について、今後の考えは。

**答** **環境課長** 資源化できる刈草などが焼却処分されているのが現状である。

刈草などを回収できる場所の設置や処理費用などの問題があるが、もえるごみの削減からも、今後検討していく。

### 粗大ごみの資源化は

**問** 粗大ごみの中には、資源化できる物も含まれていると思うが、今後の考えは。

**答** **環境課長** 現在、地区ごとに年4回の回収をしている。多くの粗大ごみを資源として回収するためには、普段でも出しやすい場所が必要である。

また、民間会社での処理やリサイクルルートの確保などの問題があるが、燃やさずにリサイクルできるよう今後検討していく。



武豊クラブ  
岩瀬 計介 議員

# 問 初山町長の4年間の総括は

## 答 マニフェストはほぼ実現できた

**着実に押し進める  
ことができた**

**問** 任期満了を迎えるにあたり、町長自身の4年間の総括を。

**答 町長** 財政状況が大変厳しい中、「選択と集中」の理念を基に、ハード事業については、持続可能な行政運営を大前提として、総合計画に従い実施してきた。同時に心の安全・安心につながるハート事業も、ベストな選択をしながら、着実に押し進めることができたと考えている。

**町民が誇りに思い、活気あふれるまちづくりを進める**

**問** 新年度を迎えるにあたり、今後の事業展開は。

**答 町長** 第5次総合計画の基本目標1  
「ともに創るまち」  
基本目標2  
「安全に暮らせるまち」  
基本目標3

「ふれあいのあるまち」  
基本目標4

「子どもが健やかに育つまち」  
基本目標5

「いきいきと暮らせるまち」  
基本目標6

「自然環境と生活環境が調和したまち」  
基本目標7

「活力に満ち誇りをもてるまち」

を指し、町民の皆さまが誇りに思い、活気あふれるまちづくりを進めていく。

**心つながり一丸となって、  
一歩ずつ進めていく**

**問** 今年のキーワード「つながり」とは、何をどのようにつないでいくのか。

**答 町長** 家族・夫婦・親友などの「人と人とのつながり」だけでなく、地域や諸団体、国・県や関係機関との「信頼」「協力」、職場での「結束」「チームワーク」、そして、町民同士や地域と地域のつながりなど、

「つながり」ことを重視するという思いであり、「心つながりみんな輝くまち 武豊」を更に充実した形あるものにするために、この「つながり」を今一度見直し、大切にしてまいりたい。

**来年度住民アンケートを実施**

**問** 武豊町まち・ひと・しごと創生総合戦略プランとして、今後3年程度で目標達成を目指すこととなるが、中間地点での調査実施予定は。

**答 企画政策課長** 「第5次武豊町総合計画・後期戦略プラン」の進捗管理として、町民の満足度や町政に対する評価を継続的に把握するため、2年に1度、「町民意識調査」の住民アンケートを行っている。中間地点の調査としても活用し、進捗状況の確認を行う予定である。



■第5次総合計画の資料



公明党議員団  
甲斐 百合子 議員

# 問 児童クラブの課題と考えは

## 答 拡充に伴う施設整備が課題

### 高学年受け入れの計画は

**問** 「武豊町子ども・子育て支援事業計画」には、平成31年度までに高学年の児童クラブ利用とあるが、今後の計画は。

**答** 健康福祉部長 高学年の受け入れは、平成31年度までに、各児童クラブの定員枠を拡充し、段階的に受け入れる計画である。

**問** 高学年になると発達過程を踏まえた配慮も必要だが、子どもが利用する場として各児童クラブの課題とそれに対する考えは。

**答** 健康福祉部長 武豊児童クラブを除き、事業計画上の定員の確保は現状の施設で可能であるが、高学年を受け入れるにあたっては、施設面の整備が今後の課題と考えられる。

武豊児童クラブについては、平成29年度予算に施設整備工事を計上している。他の児童クラブについても、

余裕教室の活用の可能性について、引き続き学校教育課や各小学校と検討を進めていきたい。

**問** 配慮を必要とする子どもへの対応や保護者・学校との連携は。

**答** 健康福祉部長 月に1度、子育て支援課と各児童クラブの代表者による「児童クラブ合同会議」において、情報共有や事例検討を行っている。



■児童クラブ活動風景

### 放課後子ども教室の開催を

**問** 国において、すべての児童が放課後を安心安全に過ごし、地域の方と多様な体験や活動ができるように、「放課後子ども教室」を児童クラブと一体または連携しての実施を推進している。本町の考えは。

**答** 町長 「放課後子ども教室」を開催するためには、教室の確保、学校区ごとの支援者の確保、支援者を手配するコーディネーターや、指導計画を立てる教育活動推進員の確保など多くの課題があるため、今すぐに開催することは難しい。

昨年8月より開始している中学生対象の「ゆめたろう塾」を、将来は小学生高学年へ拡大することも検討している。

今後の施設の利用状況や関係者の意見、他市町の動向などを勘案しながら、関係部局と連携を図り検討したい。



■緑丘児童クラブ

**問** 知多半島においても「放課後子ども教室」を実施している市町もある。親が仕事をしていても児童クラブを利用しない子どももいる。地域の方と日常的に交流することは、子どもや地域の方にとって有意義なものになっていくと考えるがどうか。

**答** 町長 校区によって状況も違う。財源の確保も必要である。

長期的な視点でニーズも調査しながら、できることから進めていきたい。